

令和2年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	02	184040	生活道路維持事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	生活道路の維持管理					
対象	道路利用者					
意図	安全で快適な通行を確保する					
事業概要	市道維持管理（舗装修繕、除雪等） 1,434,256千円 うち市道の維持工事 舗装長寿命化 融雪施設改修（吹張町滝ノ沢線・中央橋設計） 北成島花巻線落石対策 大沢温泉法面復旧 新花巻駅停車場線修繕 道路付属物点検					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	当該年度の舗装修繕件数	路線	計画	17.00	17.00	
			実績	20.00	35.00	
2	当該年度の補修件数	件	計画	250.00	250.00	
			実績	291.00	311.00	
3	当該年度の除雪回数	回	計画	10.00	10.00	
			実績	3.00	12.00	
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	当該年度の舗装修繕延長	m	目標	7,000.00	7,000.00	
			実績	8,176.00	7,853.00	
2	市の瑕疵による事故件数	件	目標	0.00	0.00	
			実績	3.00	0.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
舗装修繕は概ね目標どおりの結果であるが、補修件数は現在も地震の影響による道路沈下が現れていることから目標値を維持する。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市道の維持補修は道路管理者である市が行うものであり、その唯一の事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	舗装などの破損箇所は道路パトロールや要望により連日発見されているが全てに対応出来ない状況である。このことから、道路パトロールによる早期発見と早期補修に努めることで成果向上に繋がる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	道路施設の劣化は進行することから、安全確保に必要な維持事業費の削減余地は無い。また、補修箇所の早期対応のため、道路パトロールや苦情処理等を迅速且つ確実に行うための直営体制強化が望まれることから、人件費の削減余地は無い。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	不特定多数が利用する市道の維持補修を行う事業であるため、受益者は公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	計画的な舗装修繕を行うため、早期発注を実施したことにより目標延長を達成することができた。また、道路に起因する事故も0件であった。
	次年度に向けて	良好な道路の維持管理を継続していくために、道路パトロールの強化、現地確認・補修対応、苦情処理等への迅速で確実な体制を確保していく必要がある。

令和2年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	08	02	03	184070	生活道路整備事業費		
総合計画	分野	02 暮らし		政策	02 生活基盤の充実		
	施策	01 道路環境の充実					
目的	地区要望を踏まえた道路整備						
対象	道路利用者、市民						
意図	安全で快適な通行の確保を図る						
事業概要	生活道路整備 1,596,383千円（うち繰越明許費346,373千円） 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 事業用地買収 支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償費 道路改良舗装、舗装新設、側溝整備、防雪柵整備工事 【R1繰越】 9路線 道路改良（7路線）、側溝整備（2路線） 【R2】 50路線 道路改良（33路線）、舗装新設（4路線）、側溝整備（12路線）、防雪柵整備（1路線）						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03	
1	道路改良事業実施路線	路線	計画	41.00	38.00		
			実績	38.00	33.00		
2	舗装新設事業実施路線	路線	計画	2.00	4.00		
			実績	2.00	4.00		
3	側溝整備事業実施路線	路線	計画	15.00	12.00		
			実績	14.00	12.00		
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03	
1	道路改良整備（完成）延長	km	目標	1.80	2.90		
			実績	1.70	1.30		
2	舗装新設整備（完成）延長	km	目標	0.30	0.50		
			実績	0.30	0.70		
3	側溝整備（完成）延長	km	目標	1.40	1.20		
			実績	1.50	1.20		
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
地域要望において対策が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	市道の道路改良、舗装新設、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望の道路環境を満足された水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施する上で、計画から工事監督業務まで多岐にわたるが、現在でも効率的な事業執行に努めている。また、外部委託を行うなど人件費の削減に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・事業実施路線数は概ね計画どおりに実施できたが、整備延長については目標値を下回った。今後は、事業費や工程等の事業計画を随時見直ししながら効率的に事業を遂行する必要がある。
	次年度に向けて	・道路整備に対する要望が多数寄せられていることから、継続的な整備が必要である。

令和2年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	03	184090	花巻スマートインターチェンジ整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興					
対象	高速道路利用者					
意図	花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する					
事業概要	委託費 24,208千円 路線測量、用地測量、不動産鑑定評価、支障物件調査、交差点修正設計、説明会資料作成 用地費 5,731千円 負担金 6,810千円 詳細設計、施工管理費、事務的経費 移転補償費 137千円					
市民参画の有無	無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	地区協議会	回	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	0.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
スマートインターチェンジ整備が目的であり、成果指標の設定が出来ないため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	道路利用者の利便性、道路環境の向上、地域振興の観点で公共が関与することは妥当と認められる。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	スマートインターチェンジの整備には、ある程度の地域醸成も必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最低限の経費で整備を目指している。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	道路は公共財であるため公正性は確保されている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	事業は概ね予定どおり進捗している。
	次年度に向けて	工事がスタートすることから、より一層、事業者間の連絡調整を密に行い適切に事業を進めていく必要がある。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	04	184100	橋梁維持事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	橋梁の維持管理					
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁					
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。					
事業概要	橋梁維持 488,808千円（うち繰越明許費27,502千円） 橋梁点検、橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事 橋守事業 【R2年度 R1繰越含む】 橋梁点検 273橋 橋梁修繕設計 1橋 橋梁修繕工事 12橋 R2完了橋梁の内2橋はR1繰越修繕橋梁 橋守事業					
市民参加の有無	無し					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	修繕橋梁数	橋	計画	4.00		
			実績	3.00		
2	修繕橋梁数	橋	計画		7.00	
			実績		12.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	修繕対象橋梁修繕率（H21～R5:全26橋）	%	目標	57.00		
			実績	50.00		
2	修繕対象橋梁修繕率（R1～R5:全71橋）	%	目標		24.00	
			実績		25.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
R2年度より修繕対象橋梁数を追加実施（R1年度_橋梁長寿命化計画見直しによる。） 耐用年数により修繕対象橋梁数が年々追加されていく状況。修繕の必要な橋梁から、修繕を随時進める。 H30年度迄 対象橋梁26橋 R1年度から 対象橋梁71橋 R2年度、国費内示による4月追加補正にて修繕橋梁数を増やすことができたことから、目標値より多くの橋梁について修繕を完了することができた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容や予算について精度を上げている。 ・公共物の老朽化は年々進むものであり、現在の取り組みを維持し、継続的に修繕事業を進める必要があることから、更なる成果の向上は困難である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・前年度に個々の橋梁補修内容について調査設計を実施。 ・それにより適正な補修方法、内容を検討。 ・あわせてコスト縮減についても検討。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・個々の橋梁修繕については、前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。
	次年度に向けて	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき早期対策の必要な橋梁を優先して修繕を実施する。 ・調査設計により、修繕内容の精度を上げて事業費削減に努める。

令和2年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	05	184160	交通安全環境整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	歩行者の安全確保					
対象	道路利用者、市民					
意図	安全・安心な歩行空間の確保を図る					
事業概要	交通安全環境整備 262,066千円（うち繰越明許費141,293千円） 交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 事業用地買収 支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償費 歩道整備等工事 【R1繰越】5路線 歩道整備（4路線）、共同溝（1路線） 【R2】5路線 歩道整備（4路線）、共同溝（1路線）					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	当該年度歩道整備事業実施件数	件	計画	8.00	6.00	
			実績	7.00	5.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	歩道整備（完成）延長	km	目標	1.00	0.30	
			実績	1.00	0.40	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
交通安全プログラムによる通学路における児童の安全歩行が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、歩道整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	現況の道路敷地内で有効的に、かつ交付金事業を活用しながら歩道整備を実施しており、予算内でのさらなる向上は困難である。今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	歩道段差解消は、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して節減に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・計画的に事業実施したことにより、目標の歩道整備延長を達成することができた。
	次年度に向けて	・現況道路敷地内での土地有効活用等、工夫をして、コスト縮減に努めながら、歩道整備を実施する。

令和2年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	01	184600	道の駅整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興					
対象	西南地域（笹間・太田地区）					
意図	道の駅について整備を進める					
事業概要	建築工事（電気・機械設備含む）106,329千円 土木工事（外構・通路上屋） 91,629千円 空調設備等設置工事 13,031千円 建築監理等業務委託 4,915千円 E V充電器設置業務委託 9,020千円 備品費 6,395千円					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	整備件数	件	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	1.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
道の駅を整備する事業であり、成果指標の設定がなじまない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域課題を解決していくためのもので、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	道の駅の整備が終わり、8月より運営している。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	整備にかかる委託料や工事費及び備品購入費であり、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	西南地区に整備したもののだが、市内に既存の3つの道の駅と役割分担を図りつつ、4つの道の駅が連携することにより、地域活性化を図っていくことが可能であり、適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ道の駅を整備することにより、地域課題である人口減少や高齢化、基幹産業である農業の活力低下、公共交通不便地域としての買い物難民の増加や食堂が無いなどの課題を解決するため整備したもののだが、今後運営体制の改善、既存の道の駅との連携を図っていく必要がある。
	次年度に向けて	